



特定非営利活動法人日本水フォーラム 令和6年度 評議会

《 議 事 次 第 》

日 時 : 令和6年12月3日(火)14時45分~16時00分(開場14時15分)
場 所 : JA共済カンファレンスホール

1. 開会のご挨拶
2. 日本水フォーラム活動報告
3. 評議員による評議



【活動報告】第10回世界水フォーラムへの参画

1. 政策提言



- ・第10回世界水フォーラムが、5月18~25日にインドネシア・バリで開催。
- ・JWFは、主なプログラムのいずれにおいても、主催者やコーディネータ、スピーカー等として、主要な役割を担った。



◆ 全体テーマ：「繁栄の共有のための水（Water For shared Prosperity）」

【6つのサブテーマ】

- (1) 水の安全保障と繁栄、(2) 人類と自然のための水、(3) 災害リスクの軽減と管理、(4) 協力と水外交、(5) 水分野における持続可能なファイナンス、(6) 知識とイノベーション

◆ 主なプログラム

- ※ 政治プロセス（首脳級・閣僚級・自治体首長・流域協議会・国会議員）
- ① 地域プロセス（アジア・太平洋、地中海、アフリカ、アメリカ）
- ② テーマ別プロセス（6つのサブテーマのもと、各5つのトピックス）
- ③ Expo&Fair（各国技術等の展示会：日本パビリオン）
- ④ 開会式・閉会式（京都世界水大賞等）

◆ 橙字：JWFが主に携わったプログラム

◆ 参加者情報

- ・8名の首脳級（うち、5名が首脳）、135名の閣僚級（うち、51名が大臣）。
- ・160カ国から、7日間で延べ6.4万人が参加。（参加登録は2万人）
- ・閣僚級宣言が採択されたほか、セッションとして、35の地域プロセス、125のテーマ別プロセス、21の政治プロセス、20のハイレベルパネル、13の特別セッション等が開催された。



【活動報告】第10回世界水フォーラムへの参画

1. 政策提言



① 地域プロセス※(アジア太平洋地域)

※地域全体やサブ地域ごとに、水に関する優先課題を特定し、解決策の提案、先進事例の共有、地域協力・対話の促進。

- i) アジア・太平洋水フォーラム(APWF。事務局: JWF)として、アジア開発銀行(ADB)とアジア水会議(事務局:K-Water)の協力を受けつつ、アジア太平洋地域の全体のコーディネーターとして活躍。地域としての総括レポート「アジア太平洋地域からの提言」を発信。
- ii) また、個別に、北東アジアサブリージョナルコーディネーターを務め、日本の先進事例を発信。
- iii) なお、テーマ別プロセスサブテーマコーディネーターと、4つのハイレベルパネルを共催

◆ サブリージョンセッション

【コーディネート 及び 全体とりまとめ】

- ① 11のサブリージョンセッション(RP)、②統合セッション(5つ)、及び③アジア太平洋地域全体総括セッション



アジア太平洋
地域プロセス詳細

【スピーカーとしての参加】

- ① 東南アジア・南アジアサブリージョンセッション、② ヒマラヤ氷河決壊課題に対処する越境協力セッション、③ 太平洋島嶼国総括セッション

【共催・スピーカーとしての参加】

- ① RP1(流域災害リスク低減)、② RP2※(水と文化)、③ 北東アジア総括セッション(ユース)
- ※ RP2では、弊会が出版した「社会文化を考慮した水管理」に関するレポートを紹介。 → 詳細はこちら



→ 詳細はこちら

※なお、JWF副会長 沖大幹教授にも、開会挨拶(RP1, RP2セッション)をいただいたほか、ハイレベルパネル2(水・食料・エネルギー・環境ネクサス)では、パネリストとして登壇いただいた。



アジア太平洋地域プロセスオープニング



RP2 水と文化セッションの様子



地域プロセス(アジア・太平洋地域)における
総括セッションの様子



アジア太平洋
地域プロセス
総括レポート

◆ 総括セッション(5/23):

【全体コーディネーターとしての参加】

- ① 各セッションの ハイライトやキーメッセージを取りまとめ、
- ② アジア・太平洋地域の 「繁栄を共有するための水」の達成に向けた道筋を5つの指針ごとに示し、全体会合の場で発信。

【活動報告】第10回世界水フォーラムへの参画

1. 政策提言

② テーマ別プロセス※:

※テーマに関する優良事例、経験の共有、
解決策の提言・行動提案を実施

- ◆ T5E「水危機・水災害・気候変動に対するレジリエンスを強化するための資金確保・増額」のトピックコーディネーターを務め、5Eメンバー機関等とセッションを共催。



T5E2での 沖副会長の登壇



T5Eでの 石渡理事発表



WWF10での日本からの
メッセージを出版

②-2 ユース活動:

- ・日本全国の”水をテーマとした動画”応募者(高校生世代)から、代表4名(北海道、福岡)が現地に参画。
- ・発表や海外ユースとの交流等を通じ、世界の水関係者に対して水に関する自身の活動・課題を、自らの言葉で発信。
- ・ユース世代による表現は、メッセージ性が強く、世代・地域を超えた対話への礎となることを改めて確認。



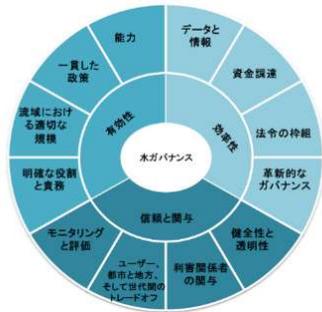
(福岡) 城東高校による発表



(北海道) 富川高校による発表

- ◆ 「(4D)利害関係者の積極的な関わりと一般市民の参画の確保」のトピックメンバーとして、セッションを共催

-また、T4C3セッション「OECD水ガバナンス指針:地域レベルでの実施のためのハンドブック」では、スピーカーとして登壇。



自治体レベルでの水ガバナンスの推進方法について、12の指針に基づき、議論



4C3 セッションの様子



4C3セッションの議論結果



展示会(日本パビリオン)での活動紹介



海外ユースとの交流

【活動報告】第10回世界水フォーラムへの参画

1. 政策提言

③ (Expo & Fair) 日本パビリオンの主催

・日本全体の展示テーマを「Sound Water Cycle: Leading to Shared Prosperity」(繁栄の共有をもたらす健全な水循環)とし、**日本の水関連の技術・経験・文化等を紹介**

(①常設展示、②動画上映、③イベント・プレゼンテーション、④ジャパンナイト等)

✓ 出展者: 約40者(22の企業・団体・省庁)が参画。(過去最大の出展者数)



ブース出展の状況



ジャパンナイトでのトークイベント・歓談
(WWC Saatci氏、京都世界水大賞受賞者、旭酒造 桜井社長)



オープニングイベントでの琴演奏



インドネシア共和国 バスキ 元大臣 来訪

④ 京都世界水大賞

- ・閉会式で、**第7回京都世界水大賞授賞式を催行**。
- ・**受賞者は、インドネシアの団体「Youth Sanitation Concern」**。フォーラム開催地の団体受賞※により、**多くの賞賛が集まった**。

※当該団体は、コロナ禍での継続した公衆トイレの整備、周知キャンペーンを通じた地域住民へ衛生習慣の定着、地域住民と連携した施設の維持管理を実施。

※なお、前回(第6回)の受賞者(Pragati(インド))が日本パビリオンに来訪。受賞により、現地(小規模な農村)の持続可能な活動がより一層推進したとお礼コメント。



閉会式での受賞状況



受賞団体によるトイレ整備



衛生習慣に関する子どもへの周知活動

■ スtockホルム世界水週間2024 アジア・太平洋フォーカスセッションの共催（8月25-29日）



- ・今年のテーマは「境界を繋ぐ:平和で持続可能な未来のための水」
- ・APWF事務局は、ストックホルム国際水研究所（SIWI）とのMoUのもと、APWFメンバー・パートナー機関と次の4つのセッションを共催し、WWF IOアジア太平洋地域プロセスでの議論をさらに深化させ、課題解決に資する提言、手法、事例を発信

< APWF事務局が共催セッション >

① レジリエンスを育む:アジア太平洋地域のマルチハザード警報システムにおけるギャップを埋める

共催機関 : APWF事務局、国際水管理研究所 (IWMI)、国連ハビタット、アジア開発銀行 (ADB)、
パートナー機関: 世界気象機関、国土交通省河川計画課国際室、ICCHARM、ストックホルム環境研究所アジア支部、ラオス気象水文局

② 水の安全保障のための企業のサステナビリティに関する取り組みの情報開示、説明責任を通じた持続可能なファイナンス

共催機関 : CDPグローバル、APWF事務局、八千代エンジニアリング
パートナー機関: Water.Org、国連グローバルコンパクト・インドネシア、PT. PPLI（インドネシア企業 Dowa子会社）

③ アジア太平洋における生態系の安全保障と水分野のレジリエンス強化のための説明責任

共催機関 : APWF事務局、ユネスコ北東アジア局、JICA、IWMI、国連ハビタット、ADB

④ ヒマラヤの河川 長期的なレジリエンスのための越境協力と資金調達の強化

共催機関: APWF事務局、ICIMOD (国際山岳開発センター)、IWMI、IUCN Asia、ADB



各詳細



①のセッションの様子



②のセッションの様子



③のセッションの様子



④のセッションの様子

■ APWF第32回執行審議会の開催 (10月18日バンコク・オンライン)

・参加者: 55名 (主にバンコク在住現地参加者11名、オンライン参加者44名)

・主な議論:

WWF10アジア・太平洋地域プロセス等の成果に即し、今後の国際会議・イニシアティブのアジェンダや第5回APWSを見据えた、APWFネットワークの**2024-2027の3カ年活動計画、マイルストーン**について

・決議事項:

APWF副議長として、シャバス・カーン ユネスコ東アジア局長を選出。

(2024年1月開催の執行審議会では、チャンファ・ウー元APWF副議長がAPWF議長に就任)



APWF第32回執行審議会の参加者



UNESCO 東アジア局
シャバス・カーン 副議長



(ご参考)
チャンファ・ウー議長

■ ESCAP第8回環境と開発委員会(10月17-18日バンコク)

- ・「議題4: 地域協力の強化」へのパネリスト参加
- ・サイドイベント「水協力を通じた適応能力の向上」の共催 (APWF、ESCAP、バングラデシュ・タジキスタン政府)



ESCAP会合へのパネリスト参加

■ ユネスコ政府間水文学計画 (IHP)

第31回アジア太平洋地域運営委員会 (RSC-AP) の参加 (10月30日 韓国・ソウル)

- ・日本ユネスコ信託基金 (J-FIT) の支援を受けて、**韓国環境省水資源政策局・韓国のユネスコ国内委員会・ユネスコRSC-AP事務局が共催**
- ・アジア太平洋地域各国のユネスコ国内委員会、及び、ユネスコ水ファミリーが、ユネスコIHPの第9期戦略計画 (IHP-IX) のもと、5つの優先分野、及び、分野横断テーマに沿った取り組みや成果を報告し、IHP-IXの進捗や影響を評価。
- ・本会合に、**朝山チーフマネージャーがAPWF代表として招待され、IHP-IX「優先分野1: 科学的研究とイノベーション」に関連する事項として、日本の「衛星データと降雨流出氾濫 (RRI) モデルを活用した洪水リスクマップ」の取り組みを紹介。**
- ・また、「優先分野4: 地球変動の状況下における統合的水資源管理」、及び、「優先分野5: 緩和・適応・レジリエンスのための科学に基づいた水ガバナンス」に資する**APWFの取り組みを紹介。**



RSC-AP会合
参加報告の詳細



RSC-AP会合における朝山チーフマネージャーの発表

■ スtockホルム国際水週間2024におけるNoWNET20周年設立記念セッション: 「共同アクションのための水パートナーシップ:利害関係者間の垣根を越えて」の開催



【NoWNETメンバー】

JWF、デンマーク水フォーラム、フィンランド水フォーラム、フランス水パートナーシップ、韓国水フォーラム、オランダ水パートナーシップ、スイス水パートナーシップ、ポルトガル水パートナーシップ、ストックホルム国際水研究機関SIWI/スウェーデン水ハウス (SWH)、世界水会議 (WWC)、世界水パートナーシップ (GWP)

- **NoWNET**は、第3回世界水フォーラムの際に設立構想が議論され、2004年に設立。今年**は設立20周年**を迎えた。
- スtockホルムでは、**NoWNET**設立20周年を記念して、これまでの**NoWNET**の成果を振り返りつつ、**NoWNET**の新たな**戦略的方向性**を見据え、**SDGs**の達成を後押しする**多様な役割**について議論。
- 「フィッシュボール対話」と呼ばれる参加型のアプローチを用いて聴講者を含むすべてのセッション参加者が気軽に意見や、経験、先進事例を交換。
- NoWNET設立メンバーの廣木謙三先生、トーキルクラウゼン博士、世界水会議 (WWC) のLoic Fauchon会長からもお言葉を頂いた。



朝山チーフマネージャーの発表



フィッシュボール対話の様子

【活動報告】草の根活動の推進

3. 草の根活動の支援

途上国の草の根団体が提案する水問題解決プロジェクトを支援

JWFファンド

水と衛生に関するプロジェクトに対し、1プロジェクトあたり1,500ドルを上限とした資金助成を実施

(1) JWFファンドによる支援を継続

- ・2024年度は、42カ国372件応募。うち、4カ国5件採択（マラウイ1件、ケニヤ1件、ウガンダ2件、パキスタン1件）。現地活動中
- ・フォローアップとして、2022年度の4件（カメルーン、タンザニア、ケニヤ、パキスタン）の施設維持と衛生習慣導入の効果を調査・良好な結果。



Mbalame村における安全な水アクセス支援プロジェクト地の現状 (JWFファンド2024、マラウイ)

(2) JWFファンド2005~23の支援実績

支援件数 (件)	支援金額 (us\$)	受益者数 (人)	作った井戸・給水設備の数 (施設)	作ったトイレの数 (個)	教育プログラムの実施数 (回)
199	204,466	273,920	540	406	516



Kahinju小学校と地域の給水改善 (JWFファンド2023、ウガンダ)



西Timor元避難民 集落配水管網補修 (JWFファンド2023、インドネシア)

4°Cアクアプログラム

2008年に4°C様と開始、受益者集3,777人。8年前からバングラデシュ沿岸農村地域での雨水貯留システムAMAMIZU設置に取り組む

(1) アクアプログラム2024の実施

10月から、新集落の調査開始、25世帯に雨水貯留タンク設置予定。

(2) ウッタースタロリ村 第4集落の実績

- ・2023年度は40世帯に雨水貯留タンク設置。
- ・2017-23の7年間でタンクを300世帯に設置、集落世帯の約半数に達した。



アクアプログラム2023 (雨水貯留システムAMAMIZUと受益世帯の例、バングラデシュ)

ダルビッシュ有 水基金

ダルビッシュ有選手と賛同者様のご寄付について、有望プロジェクトに支援。2007年開始以来、収入総額2,700万円以上。11ヶ国16プロジェクトによって2.2万人以上の受益者における水やトイレの課題を解決。

(1) 第17号プロジェクト

2024年7月からストントウメイ村(カンボジア)における雨水貯水プロジェクトの施工実施中

(2) 最近3年のプロジェクト実績

実施年	国名	プロジェクト内容	受益者数(人)
2020-21	パキスタン	コロナ禍に見舞われたマルダン県コミュニティの給水・衛生改善事業	12,144
2022	ネパール	ギョノダヤ中学校における水と衛生促進	838
2023	ネパール	ジミレク村の水と衛生プロジェクト	134



ダルビッシュ有 水基金 第17号 (雨水貯水槽の現地説明状況、カンボジア)

京都世界水大賞 2024 (内容は先述)

【活動報告】ユース活動（ユース水フォーラム）

※ユース水フォーラムはこちら



4. 人材育成・啓発



※ユース世代：高校生を中心とした15～18歳

(1) 「水未来会議2024」

- 日時：8月10日(土) 14:30-17:00
- 場所：株式会社内田洋行 新川本社「ユビキタス協創広場 CANVAS」、オンライン
- 参加者：対面及びオンライン合わせて、約60名

- ・「第10回世界水フォーラム」への参加報告を交えながら、ユース世代をはじめとする多世代で、身近な水問題から世界の状況について学び合い、流域水循環の取組をどのように変革していくことができるかを議論する場として開催。
- ・第10回世界水フォーラムの参加報告の後、多世代での水の未来に向けた課題と可能性について意見交換を実施した。
- ・現在、「水未来会議からのメッセージ2024」を取りまとめているところ。



(水未来会議2024)トークセッション



開催報告はこちら

(2) 「第10回世界水フォーラム」公式セッション、日本パビリオンでの活動発表(前出)

(3) 「ユース水フォーラムアジア2024」

- 日時：11月15日(金) 10:00-12:00, 13:00-16:00
- 場所：韓国、大邱市、Daegu EXCO, Room 306A
- 参加者：韓国、インドネシア、日本の高校生、UNESCO等
- 主催：日本水フォーラム、韓国水フォーラム

(本イベントは、11月13-16日に開催された「韓国国際水週間2024」と連携して開催)

- ・2023年3月「国連水会議」のユースセッション、2023年11月「ユース ウォーターフォーラム アジア(熊本)」に続き、日本の高校生が自国の水問題とその解決に向けた活動を発表する場として開催。
- ・午前は、韓国、インドネシア等の登壇者と交流を深めるため、アイスブレイキングや、若者の水問題への関心や参加を広げる方法について対話を実施。
- ・午後は、各国の水問題についての高校生による発表と、持続可能なアジアの水の未来に向けた活動を共有。他国の取り組みを聞くことで、自分の地域での水問題解決に向けた新しい視点とアイデアを得た。



開催告知フライヤー



(熊本)熊本商業高校の発表



アイスブレイキングの様子



(京都)宮津天橋高校への質疑応答

【活動報告】これまでの歩み(全般)

- 1. 政策提言
- 2. 日本の叡智の世界への発信
- 3. 草の根活動の支援
- 4. 人材育成・啓発

日本水フォーラム 20年間の歩み

日本水フォーラムは、2004年(平成16)年に設立され、国内外、政産官学民すべてのセクターの皆様との広範なネットワークと共に、水問題の解決に向けた活動を続けてまいりました。
2024(令和6)年、おかげさまで20周年を迎えることができました。今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

日本を世界に発信 「世界水フォーラム」2003(H15)～

水問題に関する国際的議論の潮流に大きな影響を及ぼす「世界水フォーラム」3年に一度、世界中の水関係者が一堂に会し、地球上の水問題解決に向けた議論を行う世界最大級の国際会議です。第3回は、2003年に日本で開催され、日本水フォーラム設立の契機ともなりました。第4回以降、日本水フォーラムが、日本の取り組みを効果的に発信するなど重要な役割を果たしてきました(アジア太平洋地域のとりまとめ、京都世界水大賞の顕彰、日本政府主催「日本パビリオン」運営等)。



第6回世界水フォーラム 日本パビリオン(2018年、ブラジル)

アジア・太平洋水フォーラム (APWF) 2006(H18)～

APWF(Asia-Pacific Water Forum)は、アジア太平洋地域の英知を結集し、地域特有の水問題の解決に取り組む国際ネットワーク組織で、2006年に日本主導で設立されました。APWFの主な活動は、アジア・太平洋水サミットの開催、世界水フォーラムにおけるアジア太平洋地域のとりまとめ役などです。日本水フォーラムは、APWF設立以来、その事務局を務めています。



第4回世界水フォーラム(2006年、メキシコ) 第1回APWF開会式(2007年、別府)

先進国間の連携 「NoWNET」2004(H16)～

NoWNET(Northern Water Network, ナウネット)は、先進国の水パートナーシップ機関のネットワークで、日本水フォーラムが事務局を務めています。水問題解決に貢献するため、水管理に係る先進国間での知照と経験の共有や連携強化を図っています(自然を活用した解決策、気候変動対策等)。



アジア・太平洋水サミット (APWS) 2007(H19)～

APWSは、アジア太平洋地域における水問題の解決に向け、開催国政府等とAPWFが共催する首脳級会合。第4回APWSは、「持続可能な発展のための水～実践と継承～」をテーマに、熊本と連携し、対面及びオンラインのハイブリッド形式で開催しました。



第4回APWS:天皇陛下記念講演(オンライン)(2022年、熊本)

ユース水フォーラム 2021(R3)～

水に関わる問題の解決には、世代を超えた取り組みが必要です。次世代を担う高校生世代の皆さんに参加いただくプラットフォーム「ユース水フォーラム」を2021年3月に立ち上げました。日本全国、そして世界へと活動を広げています。



国連水会議サイドイベント:ユースセッション(2023年、国連本部)

認定NPO法人 日本水フォーラム

2020(令和2)年2月3日、日本水フォーラムは、公益の増進に資する団体として「認定NPO法人」に認定されました。寄付者におかれましては、税の優遇措置を受けることが可能となり、日本水フォーラムにおいては安定した事業展開に繋がることが期待されます。

水フォーラム	～2005 (H17)	2006 (H18)～2010 (H22)	2011 (H23)～2015 (H27)	2016 (H28)～2020 (R2)	2021 (R3)～
世界フォーラム	●第3回 世界水フォーラム (日本 琵琶湖・淀川流域/京都・滋賀・大阪) (2003)	●第4回 世界水フォーラム(メキシコ) (2006) ●第5回 世界水フォーラム(トルコ) (2009)	●第6回 世界水フォーラム(フランス) (2012) ●第7回 世界水フォーラム(韓国) (2015)	●第8回世界水フォーラム(ブラジル) (2018)	●第9回世界水フォーラム(セネガル) (2022) ●第10回世界水フォーラム(インドネシア) (2024)
組織の設立	特定非営利活動法人 日本水フォーラム設立 (2004) NoWNET設立・事務局 (2004)	●アジア・太平洋水フォーラム 設立・事務局 (2006) ●第1回APWS⇒「別府からのメッセージ」(2007) ●チーム・水/日本・水の安全保障戦略機構 設立・事務局 (2009)	●「東日本大震災後の日本社会に向けての緊急提言」(2011) ●「低炭素で持続可能な水・物質循環社会へ」(2012) ●第2回APWS⇒「チェンマイ宣言」(2013)	●第3回APWS⇒「ヤンゴン宣言」(2017) ●認定NPO法人として認定 (2020)	●第4回APWS⇒「熊本宣言」(2022) ●自立的持続可能な水道事業に向けての提言書 (2024)
国際	MDGs (2000-2015) ●京都議定書 (1997)	●橋本行動計画 (2006) ●G8北海道函館湖サミット (2008)	●リオ+20 (2012) ●仙台防災枠組 (2015)	●SDGs (2016-2030) ●パリ協定発効 (2016)	●SDGs (2016-2030) ●Water Action Decade (2018-2028) ●国連水会議 (2023)
国内	●ODA大綱改訂 (2003)		●水循環基本法施行 (2014) ●開発協力大綱策定 (2015)	●SDGs実施指針 (2016)	●開発協力大綱改定 (2023) ●水道行政移管 (2024)